

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-267820
(43)Date of publication of application : 17.10.1995

(51)Int. Cl. A61K 7/02
A61K 7/00

(21)Application number : 06-084057 (71)Applicant : SHISEIDO CO LTD
(22)Date of filing : 30.03.1994 (72)Inventor : TAKAHASHI HIDEKI
AIZAWA MASANORI
NAGANUMA MASAYUKI

(54) DOUBLE LAYERED OILY MAKE-UP COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a double-layered oily make-up cosmetic having a refreshing feeling in use when applied to the skin, free from stickiness, tensional touch, etc., and resistive to sags and runs.

CONSTITUTION: This double-layered oily make-up cosmetic contains (A) 0.1 to 30.0wt.%, preferably 1.0 to 20.0wt.% spherical powder of an organopolysiloxane elastomer having 1.0 to 15.0 μm , preferably 1.0 to 10.0 μm average particle diameter, (B) 5.0 to 70.0wt.%, preferably 20.0 to 60.0wt.% hydrophobilized powder and (C) 20.0 to 95.0wt.%, preferably 40.0 to 70.0wt.% oil phase composed of oil components such as an aliphatic hydrocarbon, an animal and vegetable oil and an ester oil and having $\leq 500\text{cps}$ at 25° C. As the curable organopolysiloxane composition which is the raw material of the spherical powder as the component (A), an additional reaction type composition is preferably used. A composition composed of (A) an organopolysiloxane having two or more lower alkenyl groups in one molecule, (B) an organopolysiloxane having two or more Si bonds in one molecule and (C) a platinum-based catalyst is especially preferable.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 11.07.2000

[Date of sending the examiner's decision
of rejection] 21.10.2003

[Kind of final disposal of application
other than the examiner's decision of
rejection or application converted
registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2003-22705

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 20.11.2003

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998, 2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-267820

(43)公開日 平成7年(1995)10月17日

| (51)Int.Cl. ⁶ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|--------------------------|------|--------|-----|--------|
| A 6 1 K | 7/02 | M | | |
| | | P | | |
| | 7/00 | J | | |
| | | Q | | |

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平6-84057

(22)出願日 平成6年(1994)3月30日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 高橋 秀企

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株

式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 相沢 正典

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株

式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 長沼 政行

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株

式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74)代理人 弁理士 館野 千恵子

(54)【発明の名称】 二層状油性メーキャップ化粧料

(57)【要約】

【目的】 肌に塗擦した時にさっぱりとした使用感を有し、しかもべたつきやきしみ等がなく、垂れ落ちのしない二層状油性メーキャップ化粧料を提供する。

【構成】 平均粒子径1.0~15.0 μ mのオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体と、疎水化处理粉末と、25℃で500cps以下の油相とを配合する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 平均粒子径1.0～15.0 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体と、疎水化処理粉末と、25℃で500cps以下の油相とを含有してなることを特徴とする二層状油性メーキャップ化粧料。

【請求項2】 平均粒子径1.0～15.0 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の配合量が0.1～30.0重量%、疎水化処理粉末の配合量が5.0～70.0重量%、25℃で500cps以下の油相の配合量が20.0～95.0重量%である請求項1記載の二層状油性メーキャップ化粧料。

【請求項3】 平均粒子径1.0～15.0 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の配合量が1.0～20.0重量%、疎水化処理粉末の配合量が20.0～60.0重量%、25℃で500cps以下の油相の配合量が40.0～70.0重量%である請求項2記載の二層状油性メーキャップ化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は二層状油性メーキャップ化粧料に関し、さらに詳しくはさっぱりとした使用感を有し、べたつきやきしみ等のない二層状油性メーキャップ化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】二層状油性メーキャップ化粧料は、不使用時に静置しておく上層が油層、下層が粉末層に分れており、使用時に振とうすると二層が混ざりあって均一に分散して液状を呈するもので、使用時ののびが軽く、肌に塗布する場合肌に負担を与えないという特徴を有する。この中でも疎水化処理粉末をシリコン系オイル中に分散した二層状油性メーキャップ化粧料は、のびが軽く、さっぱりとした使用性を有し、化粧もちにも優れているため、多用されている（特開昭62-223107号公報）。しかし、オイル中に粉末が分散した形態であるため、べたつきやきしみ等を避けることはできず、その使用性は未だ満足できるものではなかった。また、粘度が低いため、垂れ落ちするなど操作上の問題点もあった。

【0003】一方、平均粒子径1～15 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体は、滑らかな塗擦感を有し、肌に違和感や刺激を与えることがない化粧料用粉体として近年開発され（特開平2-243612号公報、特公平4-17162号公報、特公平4-66446号公報）、その好ましい特性から種々の製品への応用が期待されてはいるものの、その開発は今後の課題として残されていたものであった。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは上記課題を解決すべく鋭意研究した結果、平

均粒子径1.0～15.0 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体と疎水化処理粉末と25℃で500cps以下の油相とを配合すれば、べたつきやきしみ等がなく、さっぱりとした使用性を有し、さらに垂れ落ちも配合量を調整することで改善できる二層状油性メーキャップ化粧料が得られることを見出し、本発明を完成した。

【0005】即ち本発明は、平均粒子径1.0～15.0 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体と、疎水化処理粉末と、25℃で500cps以下の油相とを含有してなることを特徴とする二層状油性メーキャップ化粧料である。

【0006】以下、本発明の構成について説明する。本発明で使用される平均粒子径1.0～15.0 μm のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体は、本発明のメーキャップ化粧料の肌への塗擦感をなめらかにし、のびの軽さ、さっぱりさ、ソフト感といった使用性を向上させるために必要な成分である。

【0007】オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の原料となる硬化性オルガノポリシロキサン組成物の種類は特に限定されるものでなく、けい素原子結合水素原子含有ジオルガノポリシロキサンとけい素原子結合ビニル基を有するオルガノポリシロキサンを白金系触媒存在下に付加反応により硬化する付加反応硬化型オルガノポリシロキサン組成物；分子鎖両末端に水酸基を有するジオルガノポリシロキサンとけい素原子結合水素原子を有するジオルガノポリシロキサンを有機錫化合物の存在下で脱水素反応させ硬化する縮合反応硬化型オルガノポリシロキサン組成物；分子鎖両末端に水酸基を有するジオルガノポリシロキサンと加水分解性のオルガノシラン類とを有機錫化合物ないしチタン酸エステル類の存在下に縮合反応させ硬化する縮合反応硬化型オルガノポリシロキサン組成物（ここで縮合反応として脱水、脱アルコール、脱オキシム、脱アミン、脱アミド、脱カルボン酸、脱ケトンが例示される。）；有機過酸化物触媒により加熱硬化する過酸化物硬化型オルガノポリシロキサンエラストマー組成物； γ 線、紫外線または電子照射により硬化する高エネルギー線硬化型オルガノポリシロキサン組成物が例示される。好ましくは、硬化速度が速いことや硬化の均一性に優れる点から付加反応硬化型オルガノポリシロキサン組成物である。この様な付加反応硬化型オルガノポリシロキサン組成物として特に好ましいのは、（A）1分子中に少なくとも2個の低級アルケニル基を有するオルガノポリシロキサン、（B）1分子中に少なくとも2個のけい素原子結合水素原子を有するオルガノポリシロキサン、および、（C）白金系触媒からなるものである。

【0008】上述した硬化性オルガノポリシロキサン組成物の主剤となるオルガノポリシロキサンのけい素原子に結合する他の有機基としては、メチル基、エチル基、

プロピル基、ブチル基、オクチル基のようなアルキル基；2-フェニルエチル基、2-フェニルプロピル基、3, 3, 3-トリフルオロプロピル基のような置換アルキル基；フェニル基、トリル基、キシリル基のようなアリール基；エポキシ基、カルボン酸エステル基、メルカプト基などを有する置換一価炭化水素基が例示される。オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体は、上述した付加反応硬化型、縮合反応型もしくは過酸化物硬化型オルガノポリシロキサン組成物を、ノニオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤または両性界面活性剤のような界面活性剤の存在下で水と混合し、ホモミキサー、コロイドミル、ホモゲナイザー、プロペラ型ミキサー等で均一に混合後、50℃以上の熱水中に放出し硬化させ乾燥させて得る方法；付加反応硬化型、縮合反応硬化型もしくは過酸化物硬化型オルガノポリシロキサン組成物を熱気流中に直接噴霧し硬化させて得る方法；エネルギー線硬化型オルガノポリシロキサン組成物を高エネルギー照射下で噴霧し硬化させて粉体を得る方法；付加反応硬化型、縮合反応硬化型、過酸化物硬化型もしくは高エネルギー硬化型オルガノポリシロキサン組成物を高エネルギー照射下で硬化させたものを、ボールミル、アトマイザー、ニーダー、ロールミルなどの公知の粉碎機により粉碎して粉体を得る方法等により得られる。粒子径の均一で小さなしかも球状の粉体を得る点から、付加反応硬化型、縮合反応硬化型、過酸化物硬化型オルガノポリシロキサン組成物を、ノニオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤または両性界面活性剤のような界面活性剤の存在下で水と混合し、ホモミキサー、コロイドミル、ホモゲナイザー、プロペラ型ミキサー等で均一に混合後、50℃以上の熱水中に放出し硬化させ乾燥させて得る方法が好ましい。

【0009】本成分の詳細は特公平4-66446号公報、特開平2-243612号公報および特公平4-17162号公報に記載されており、市販品としては、例えばトレフィルE-505C、トレフィルE-506C（東レ・ダウコーニング・シリコン株式会社製商品名）が挙げられる。本成分の平均粒子径は1.0~15.0μm、好ましくは1.0~10.0μmであることが本発明のメーキャップ化粧料に滑らかさやソフト感、および健康的で自然な色彩感を付与するために必要である。1.0μm未満では滑らかさがなくなり、15.0μmを超えるとざらつき感がある。

【0010】本発明において、オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の配合量は0.1~30.0重量%、好ましくは1.0~20.0重量%である。配合量が0.1重量%未満では使用性の改善効果が少なく、30.0重量%を超えるときしみ感がある。

【0011】本発明で用いられる疎水化処理粉末は、無機粉末および有機粉末から選ばれる粉体の1種または2種以上の表面を疎水化処理したものである。表面処理法

としては、例えば粉体表面に油脂を吸着させたり、水酸基等の官能基を利用し、エステル化やエーテル化を起こさせ粉体を親油的にする油脂処理法、脂肪酸の亜鉛塩やマグネシウム塩を用いた金属石ケン処理法、高粘度シリコーンによって表面を処理したもの、アルキルハイドロジェンポリシロキサンを反応させたシリコーン樹脂で表面をコーティングしたもの、さらにこれをアルケン処理したもの、カチオン性活性剤、アニオン性活性剤、ノニオン性活性剤の1種または2種以上で処理したもの、ワックスで表面を被覆したもの、ジメチルポリシロキサンまたはメチル水素ポリシロキサンを用いたシリコーン処理法、パーフルオロアルキル基を有するフッ素化合物で処理する方法等が挙げられる。

【0012】処理される母粉体としては、顔料、紫外線散乱剤等の水および油に実質的に不溶な物質であれば特に制限されず、例えば酸化チタン、酸化鉄、群青、亜鉛華、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、マイカ、セリサイト、タルク、シリカ、カオリン、水酸化クロム、カーボンブラック等の無機顔料、ナイロンパウダー、ポリメチルメタクリレート、スチレン-ジビニルベンゼン共重合体、ポリエチレン粉末等の有機粉体及び有機色素等が挙げられる。

【0013】これら疎水化処理粉末は、1種または2種以上を組み合わせて用いることができ、全組成中に5.0~70.0重量%、特に20.0~60.0重量%配合するのが好ましい。5.0重量%未満ではメーキャップ効果を感じないので好ましくなく、70.0重量%を超えると粘度が出すぎて好ましくない。

【0014】本発明の二層状油性メーキャップ化粧料には、上記のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体および疎水化処理粉末以外の粉体を含有させることができる。このような粉体としては、次の無機顔料、有機顔料等がある。

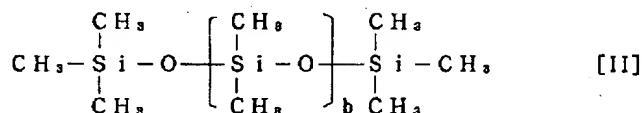
【0015】無機顔料としては、タルク、カオリン、マイカ、セリサイト、シリカ、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ベントナイトやモンモリロナイト等の粘土鉱物粉末、アルミナ、硫酸バリウム、第2リン酸カルシウム、炭酸カルシウム、水酸化鉄、ヒドロキシアパタイト、酸化チタン、粒子径0.1μm以下の微粒子酸化チタン、酸化ジルコニウム、酸化亜鉛、ヒドロキシアパタイト、酸化鉄、チタン酸鉄、黄土、マンガウバイオレット、コバルトバイオレット、水酸化クロム、酸化クロム、酸化コバルト、チタン酸コバルト、コバルトチタネート、紺青、群青、酸化チタンコーテッドマイカ、酸化チタンコーテッドタルク、およびこれらの二種以上を複合化した複合顔料等が挙げられる。

【0016】有機顔料としては、ポリエステル、メタクリル酸メチル樹脂、セルロース、1,2ナイロン、6ナイロン、スチレンとアクリル酸の共重合体、ポリプロピレ

ン、塩化ビニル、ナイロンパウダー、ポリエチレンパウダー、ベンゾグアナミンパウダー、テトラフルオロエチレンパウダー、窒化ボロン、魚鱗箔、タール系色素をレーキ化したもの、天然色素をレーキ化したもの、および無機顔料と有機顔料を複合化した複合顔料などが挙げられる。

【0017】本発明の二層状油性メーキャップ化粧料における粉体全体の配合量は化粧料全量中の5.0～70.0重量%が好適である。

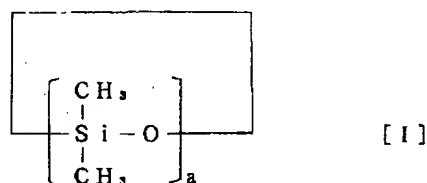
【0018】本発明において、25℃で500cps以下の油相を構成する油分としては、流動パラフィン、スクワラン等の脂肪族炭化水素、ミンク油、オリーブ油、ホホバ油、ヒマシ油、ラノリン等の動植物油、イソプロピルミリスレート、オクチルドデシルミリスレート、トリメチロールプロパントリイソステアレート、リンゴ酸ジイソステアリル等のエステル油、イソステアリルアルコール、オレイルアルコール等の高級アルコール、オレイン酸、イソステアリン酸等の高級脂肪酸、沸点260℃以下のイソパラフィン、例えばアイソパー（登録商標）A、同C、同E、同G、同H、同K、同L、同M（エクソン社）、シェルゾール（登録商標）71（シェル社）、ソルトロール（登録商標）100、同130、



同220（フィリップ社）など、またシリコン系オイルとして、ジメチルポリシロキサン、ジメチルシクロポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジェンポリシロキサン、高級脂肪酸変性オルガノポリシロキサン、高級アルコール変性オルガノポリシロキサン、トリメチルシロキシシリケート、下記【I】または【II】の構造をもつ揮発性のジメチルポリシロキサンおよびジメチルシクロポリシロキサン等を例示することができる。この中でも特に、シリコン系オイルが好ましい。

【0019】

【化1】



a = 3 ~ 6

【0020】

【化2】

b = 0 ~ 3

【0021】また、使用性を調整する目的で、炭素数1ないし5の低級アルコールの1種または2種以上を配合してもよい。上記油分（アルコールを含む。）の粘度は低粘度から高粘度のものに至っているが、油分によって構成される油相の粘度が25℃で500cps以下であることが本発明の必須要件であり、高粘度油分の配合も油相全体の粘度が25℃で500cps以下に納まる範囲であれば構わない。同様に、上記油分に溶解する樹脂等の配合も配合した油相の粘度が25℃で500cps以下であれば可能である。ここで云う樹脂としては、一般の油溶性樹脂を挙げることができ、例えば芳香族系炭化水素樹脂（日本石油社の日石ネオポリマーT、120、140等）、テルペン系樹脂（日本ゼオン社のQuintone A-100、B-170、C-100等）、ポリブデン（出光石油社のポリブデン200等）、ポリイソブレン（エクソン社のエスコレツ1071U、1103U等）、アルキド樹脂（大日本インキ社のベッコゾールEL8011、ソリッドベッコゾールNo.31、No.96）、PVP変成ポノマー（五協産業社のGanex V-216、V-220等）、シリコン樹脂（信越化学社のKR-285、KR-278、KR-266、KR-114）等を挙げることができる。上記樹脂の中で、シリコン樹脂

は SiO_2 、 $\text{RSiO}_{3/2}$ 、 R_2SiO （Rは水素、炭素数1～6の炭化水素基またはフェニル基を表す。）なる構造単位の1種または2種以上からなる共重合体であり、炭化水素油やシリコン油等によく溶解するので特に好ましい。なお、油相の粘度が常温で500cpsより高いと塗布中にべたつきを感じ、本発明の特徴は得られない。油分として、前述した油分中常圧における沸点が260℃以下の揮発性油分を用いることによって、塗布中はのびが軽く肌に負担を与えず、塗布後はさっぱりとした使用感を与えると共に耐水、耐油および耐皮脂性を向上させることもできる。

【0022】本発明においては、これらの中から1種または2種以上の油分が任意に選ばれて用いられる。25℃で500cps以下の油相の配合量は、二層状油性メーキャップ化粧料全量中の20.0～95.0重量%、好ましくは40.0～70.0重量%である。

【0023】本発明のメーキャップ化粧料を得るには、オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体および疎水化処理粉末を含む粉体、および25℃で500cps以下の油相を混合することにより得ることができる。

【0024】本発明の二層状油性メーキャップ化粧料には、必要に応じて、本発明の効果を損なわない範囲内で

さらに水、界面活性剤、増粘剤、酸化防止剤、防腐剤、紫外線吸収剤、薬剤、香料などを配合してもよい。

【0025】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明する。本発明はこれによって限定されるものではない。配合量は重量%である。

実施例1 ファンデーション

| | |
|------------------------------|------------|
| (1) ジメチルポリシロキサン(10~20cps) | 35.0 (重量%) |
| (2) メチルフェニルポリシロキサン(10~20cps) | 10.0 |
| (3) トリメチルシロキシシリケート | 5.0 |
| (4) 香料 | 適量 |
| (5) エタノール | 10.0 |
| (6) シリコーン処理二酸化チタン | 10.0 |
| (7) シリコーン処理タルク | 25.0 |
| (8) シリコーン処理顔料 | 適量 |
| (9) オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体 | 2.0 |

【0026】【製法】(1)~(5)の各成分を混合し、これに混合粉砕した(6)~(9)を加え、攪拌混合して均一に分散し二層液状ファンデーションを得た。

【0027】

実施例2 ファンデーション

| | |
|----------------------------|------------|
| (1) 環状ジメチルポリシロキサン (沸点210℃) | 29.0 (重量%) |
| (2) オクチルメトキシシンナメート | 3.0 |
| (3) ジメチルポリシロキサン (10~20cps) | 10.0 |
| (4) トリメチルシロキシシリケート | 10.0 |
| (5) ソルビタントリオレート | 3.0 |
| (6) 香料 | 適量 |
| (7) フッ素処理二酸化チタン | 5.0 |
| (8) フッ素処理微粒子二酸化チタン | 15.0 |
| (9) フッ素処理マイカ | 20.0 |
| (10) フッ素処理顔料 | 適量 |
| (11) オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体 | 0.1 |

【0028】【製法】(1)~(6)の各成分を混合し、これに混合粉砕した(7)~(11)を加え、攪拌混合して均一に分散し二層液状ファンデーションを得た。

【0029】

実施例3 ファンデーション

| | |
|----------------------------|------------|
| (1) 低沸点イソパラフィン (アイソパーG) | 40.0 (重量%) |
| (2) 流動パラフィン | 5.0 |
| (3) オクチルドデシルミリステート | 5.0 |
| (4) ジイソステアリン酸ジグリラリン | 5.0 |
| (5) 香料 | 適量 |
| (6) タルク | 2.0 |
| (7) デキストリン脂肪酸処理二酸化チタン | 10.0 |
| (8) 硫酸バリウム | 1.0 |
| (9) デキストリン脂肪酸処理顔料 | 適量 |
| (10) オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体 | 30.0 |

【0030】【製法】(1)~(5)の各成分を混合し、これに混合粉砕した(6)~(10)を加え、攪拌混合して均一に分散し二層液状ファンデーションを得た。

【0031】

実施例4 アイシャドー

| | |
|----------------------------|------------|
| (1) 環状ジメチルポリシロキサン (沸点210℃) | 50.0 (重量%) |
| (2) スクワラン | 5.0 |
| (3) トリメチルシロキシシリケート | 10.0 |
| (4) 香料 | 適量 |
| (5) 二酸化チタン | 20.0 |
| (6) フッ素処理マイカ | 5.0 |
| (7) 酸化鉄系処理顔料 | 適量 |

- (8) パール系顔料 3. 0
(9) オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体 5. 0

【0032】〔製法〕(1)～(4)の各成分を混合し、これに混合粉碎した(5)～(9)を加え、攪拌混合して均一に分散しアイシャドーを得た。

【0033】比較例1 ファンデーション

実施例1のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の代わりにシリコーン処理タルク(2. 0%)を配合したほかは、実施例1と同様の配合処方で二層液状ファンデーションを得た。

【0034】比較例2 ファンデーション

実施例2のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の代わりにフッ素処理マイカ(0. 1%)を配合したほかは、実施例2と同様の配合処方で二層液状ファンデーションを得た。

実施例5 頬紅

- (1) ジメチルポリシロキサン(10～20cps) 15. 0(重量%)
(2) 環状ジメチルポリシロキサン 10. 0
(3) 香料 適量
(4) シリコーン処理二酸化チタン 10. 0
(5) シリコーン処理亜鉛華 5. 0
(6) シリコーン処理タルク 55. 0
(7) シリコーン処理顔料 適量
(8) オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体 2. 0

【0038】〔製法〕(1)～(4)の各成分を混合し、これに混合粉碎した(5)～(8)を加え、攪拌混合して均一に分散し頬紅を得た。

【0039】比較例5 頬紅

実施例5のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の代わりにシリコーン処理タルク(2. 0%)を配合したほかは、実施例5と同様の配合処方で頬紅を得た。

【0040】比較例6 ファンデーション

実施例1のジメチルポリシロキサン(10～20cps)の代わりにジメチルポリシロキサン(5000cps)を配合したほかは、実施例1と同様の配合処方でファンデーションを得た。

【0041】比較例7 ファンデーション

実施例3のデキストリン脂肪酸処理二酸化チタンおよびデキストリン脂肪酸処理顔料の代わりに、それぞれ二酸化チタン(10. 0%)、顔料(適量)を配合したほかは、実施例3と同様の配合処方でファンデーションを得た。

ーションを得た。

【0035】比較例3 ファンデーション

実施例3のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の代わりにデキストリン脂肪酸処理タルク(30. 0%)を配合したほかは、実施例3と同様の配合処方で二層液状ファンデーションを得た。

【0036】比較例4 アイシャドー

実施例4のオルガノポリシロキサンエラストマー球状粉体の代わりにフッ素処理マイカ(5. 0%)を配合したほかは、実施例4と同様の配合処方でアイシャドーを得た。

【0037】

化チタン(10. 0%)、顔料(適量)を配合したほかは、実施例3と同様の配合処方でファンデーションを得た。

【0042】次に、実施例1～5および比較例1～7で得られたファンデーションについて、①肌なじみ、②べたつき、③つるつる感、および④垂れ落ちを評価した。評価は、10名に使用した時の次に示すような基準に基づいて行った。

◎：10人中8人以上が良好と評価したもの。

○：10人中6～7人が良好と評価したもの。

△：10人中4～5人が良好と評価したもの。

×：10人中3人以下が良好と評価したもの。

上記の評価基準に基づく結果を表1に示す。

【0043】

【表1】

| 試料 | 肌なじみ | べたつき | つるつる感 | 垂れ落ち |
|------|------|------|-------|------|
| 実施例1 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 実施例2 | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 実施例3 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| 実施例4 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 実施例5 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 比較例1 | × | × | △ | × |
| 比較例2 | △ | △ | × | × |
| 比較例3 | × | × | × | × |

| | | | | |
|-------|---|---|---|---|
| 比較例 4 | × | △ | △ | × |
| 比較例 5 | △ | △ | × | × |
| 比較例 6 | × | × | × | × |
| 比較例 7 | △ | × | × | × |

【0044】表1から明らかな如く、実施例品は比較例品に比べて、肌なじみが良く、べたつかず、つるつる感があり、しかも垂れ落ちがしないものであった。

【0045】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の二層状油性メーキャップ化粧料は、肌に塗擦した時にさっぱりとした使用感を有し、しかもべたつきやきしみ等がなく、操作性も良好なものである。